

平成 29 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術研究科 情報アーキテクチャ専攻

【研究代表者氏名】：大崎理乃

【研究代表者氏名フリガナ】：オオサキアヤノ

【研究代表者職】：助教

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・産業技術研究科 創造技術専攻 國澤好衛 教授
- ・産業技術研究科 創造技術専攻 大久保友幸 助教

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・なし

【研究課題名】：PBL 活動評価指標開発のための活動要素の調査と分析

【研究実績の概要（600～800 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

本学（以下、AIIT）では、2006 年の開学以来、第 2 学年における PBL 活動を特徴とし、その指導ノウハウを蓄積するなど、一定の成果をあげてきた。しかし、これらの成果を継続的かつ安定的に提供するためには、適切な PBL の設計が行われる必要があり、その適切性を評価するための評価方法は未だ開発されていない。本研究は、AIIT における高度専門職人材育成のための PBL 活動評価指標開発を目的として、PBL に求められる活動の検討のために、調査及び分析を行うものである。今年度の具体的な研究実績は以下の通りである。

- ・AIIT の教育活動を支援する企業における「高度専門職人材の定義」、「高度専門職人材のための教育内容（活動）への期待」、「高度専門職人材に関する認識」を、企業を対象としたアンケートにて調査した。分析の結果、高度専門職人材には「知識」への期待が寄せられていることが確認された。また、高度専門職人材育成のためには、モチベーション向上などの学習支援と知識・技能の獲得を目指す学習機会が期待されていることも確認された。

- ・本研究における調査分析結果は、AIIT の PBL 運営を外部委員を交えて議論する PBL 検討部会の場合において報告し、外部委員から産業界の視点でのご意見を伺った。

- ・さらに、先行研究にて高度専門職教育が社会における専門職の役割と密接に関わっていることが指摘されていることから、専門職認定を行う民間団体などが実施する専門職教育の実践内容を調査した。調査対象を、本学の教育領域と関連が強いソフトウェア開発方法、機械学習、デザイン方法論に限定し、代表的な研修内容を分析したところ「教育内容の体験的な学習」と「認定資格の習得」が特徴として確認された。

- ・本研究の成果は、論文として産業技術大学院大学紀要にて報告した。

- ・PBL の評価改善活動は、第 3 期中期計画の重要なテーマと位置づけられており、そのための評価指標の開発は平成 29 年度の年度計画となっている。平成 30 年度以降は得られた成果をもとに具体的な評価改善活動を進めていく予定である。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

・なし

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

・大崎理乃，大久保友幸，國澤好衛（2018）高度専門職人材を目指した PBL 活動検討のための産業界ニーズの調査分析．産業技術大学院大学紀要 第 11 号，pp.23-28

【作品等】

・なし

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

・なし

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・なし

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

・なし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額 (円))

・大崎理乃，産業技術研究科 情報アーキテクチャ専攻，440,000 円